

◆ *Yokoso Obara Linkai*

Take Free [0円]

おばらのじかん

— 第12号 —

2017 Winter

巻頭
特集

[おばらの子育て] 中学校編

伝統と
特色ある

小原中学校

[お菓子野山]

[小原のパワースポット特集]

[マンガイカくんキンちゃんの小原日記]

[小原いろいろ情報]

声を出せ! 汗を出せ! 知恵を出せ!

f 小原人集まれ! 「おばちゅう卒」
www.facebook.com/obachuu

おばちゅう
以外でもOK

おばらの子育て 伝統と特色ある 小原中学校

「こんにちは！」中学校に行くと生徒の大きな挨拶のお出迎えが待っていた。小原地区に唯一ある小原中学校の現在の姿や受け継がれている伝統など特色ある学校づくりについて取材した。



おば中生合言葉

「声を出せ」「汗を出せ」「知恵を出せ」

小規模校

全校生徒82名
(男子43名・女子39名)
平成29年度 現在

進路

進学率ほぼ100%
(公立25名・私立10名)
平成28年度 卒業生の場合

地域

和紙・四季桜・地歌舞伎が有名な
豊田市の山里小原地区



小原中学校の特色

教頭 堀秀雄 先生

今回は、ご自身も小原中学校出身である堀教頭先生にお話を伺った。

7〜8年前から生徒の合言葉が「声を出せ」「汗を出せ」「知恵を出せ」となり取り組んでいるそうで、地域の方への大きな声での挨拶や、部活に周回鍛錬と体をよく動かすことが、来校者や地域の方にも随分、浸透してきたそうだ。小原中学校は現在、全生徒数82名の小規模校。だからこそ、教師が子どもを見る時間が充実しており、教員数的にも手は掛かっている。生徒たちは大規模校と比べて落ち着いた学習生活が出来ていて、生徒同士のコミュニケーションもとても良いのが小原中の特徴とのこと。

教育面での特色についてお伺いすると「小原周回鍛錬」と言っていて中学校生活3年間を通して小原地区全域を歩くことや、小学校もそうですが小原の伝統文化、小原和紙工芸についての授業も継続しているそう。また、18年前の小原観光協会さんのお話から、四季桜※1の苗木を育てる取組も行っている。森林組合さんや地域の方のご指導で、1年生の時、挿し木をして3年かけ大きく育て卒業時に持ち帰る取組だ。東日本大震災があった陸前高田市の取組「桜ライン311※2」にその桜の苗木を送る活動もしており、これまで100本以上送っている。平成29年4月には全国的にも表彰を受けたそうで、今年も陸前高田市より「桜ライン311」代表の方が小原中へ訪問されたそうだ。

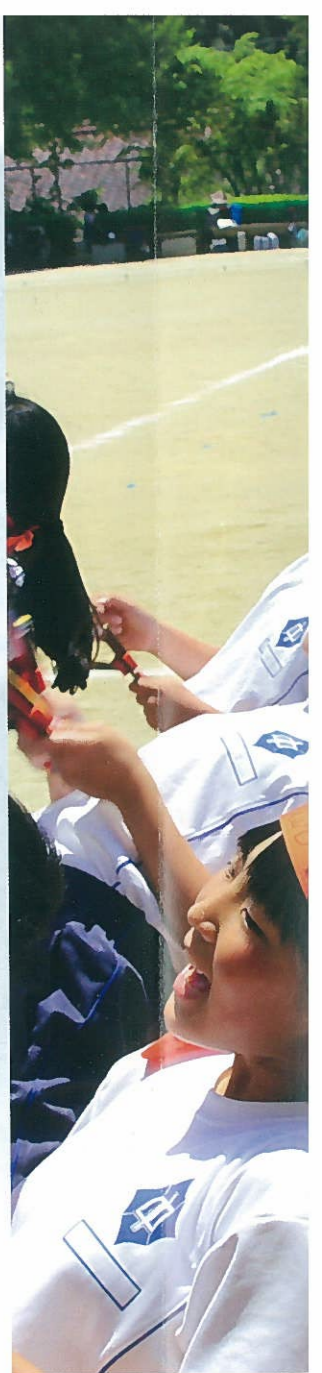
進路についてお聞きすると、ほぼ高校進学が100%で、昨年は35名中、公立が25名、私立10名とのこと。近場の加茂丘高等学校、豊田、豊田北、猿投農林、杜若高等学校、さらには岐阜の中央高等学校といった学校に多く進学しているそう。就職においてはどうしても自動車運転免許証がある事からあまり無く、進学するとバス通学や親の送迎がほとんどだそうだ。

生活面では、小規模校ということで子ども同士全員、顔がわかるため、会話が気軽にできたり、親同士もよく知っている事もある子どもの喧嘩が親同士の喧嘩に発展したりしないようだ。



「私自身、小原出身なので小原で過ごしたかけがえない思い出は、人生の原点」と話す。子どもたちにもそうあつてほしいそうだ。

※1 四季桜とは、春と秋に2度の花を咲かせる桜。小原地区内に約1万本植えられている。
※2 桜ライン311は東日本大震災の津波の到達点に桜を植え、後世に伝える取り組み



小原中学校の特色

小原中学校が特色ある学校づくりに取り組んでいる、代表的な行事や授業、部活動を取り上げました。

おば中ソーラン



12年ほど前から始まり、今では伝統となった「おば中ソーラン」は、体育大会の大トリの演技となっている。

全校を縦割りで2チームに分け、基本となる「ソーラン踊り」をもとにみんなで協力し、構成や動きを創作し、踊りで競い合う。各チーム、休み時間などを使って自主的に練習し、かけ声や鳴子を使い、跳んだり走ったりと、運動場をとりまわりと踊りまわる姿は迫力満点。何より、真剣な子どもたちの姿勢や表情に感動を覚える人は少なくない。

小原周回鍛錬



小原地区の道慈本城、小原中部の3つの小学校区を1年に1コース、3年かけて小原地区を周る。

全校生徒が5、6人の異学年で班をつくり、地図をもとに目標タイムにゴールすること、地域に関するクイズに答えることで勝敗を競う。保護者が豚汁やいのしし汁をふるまったり、歩行中も、保護者や地域のボランティアの方が、安全指導を行ったりする協力体制がある。中学生同士、絆を深めると共に、地域の良さも感じることのできる行事。

四季桜の育成



小原の代名詞となる四季桜を3年間かけ、挿し木から育て、卒業時に持ち帰るという年月をかけている行事。

1年生では挿し木の指導を地域講師の安藤さんに教わる。小さな苗木は最初はプランターで根腐れしないように様子を見ながら水をやり、3年間で約2mくらいに育てる。また、その桜は、陸前高田市の「桜ライオン311」活動(教頭先生のお話を参照)などに貢献し、「さくら功労賞」も受賞した。

小原和紙の学習



豊田市の特色ある学校づくり推奨事業を活用し、小原の伝統工芸、小原和紙を3年間で学び、実習している。

1年生では「和紙探検隊」と称し、和紙作家さんの工房や和紙のふるさとを訪れ、和紙の制作方法や作家さんの生き方、地域への思いを学び、2、3年生では、地域講師富樫章紀先生の指導を受けながら、各学年26時間ずつ計52時間の作品づくりに取り組んでいる。作品は後日、和紙のふるさとに展示。

小原地域との関わり



小原中学校では地域のイベント(夏まつり、和紙良いフェスタ文化まつりなど)や施設(こども園・福祉施設など)へのボランティア活動を推奨しており、その活動で地域の方々と触れ合うことで子どもたちの心を耕し、小原の事を知り、郷土愛も育んでいる。吹奏楽部においては、ボランティア演奏をいろいろないイベントで披露している。

また、2年生では地域で学ぶ職場体験として、小原地域の事業所で地域密着の職場体験学習も実施している。

部活動



現在の小原中学校は、少人数のため部活動が軟式テニス部と吹奏楽部の2つ。共に長年続く伝統ある部活である。

中でも軟式テニス部は、小学生の時から、地域のボランティアグループがソフトテニス教室をしており、小規模ながら優秀な成績を多数残している。また、吹奏楽部は、大規模校に引けをとらない成績もさることながら、部活動以外にも小原地域のイベントで、ボランティア演奏を披露しており、大変好評を得ている。

中学生暮らし満足度アンケート

※平成28年度小原中2〜3年生

Q あなたは「自分の住んでいる小原」豊田市が好きですか?



Q 大人になっても今住んでいる小原に住みたいと思いますか?



【他の街に住みたい内訳】名古屋7、東京1、岡崎1、瀬戸1

Q 自分の住んでいる地域の魅力(じまんできるもの)は何だと思いますか?



【あるの内訳】和紙25、四季桜23、歌舞伎13、自然17、五平餅3、優しい人1

生徒の声

Q 男子テニス部です

ね。部活が吹奏楽とテニスしかないけど、どうかな?

中 卓球や野球があったら良かった

Q 部活で楽しいこと、夢は?

中 試合で勝ったとき。先生にほめられたとき。テニスで愛知選抜に選ばれた。団体戦で勝ちあがっていき。先生が練習メニューをすごい熱心に考えてくれて。去年の先輩が強かった。のでそれに負けないようにがんばりたい。

Q 小原中のいいところは?

中 人数が少ないのでみんなで仲良くなれる。話したことがない人はいない。3年間クラス変えがないのでみんなと楽しめる。

Q これからの小原に対して思うことは?

中 小原をもっと広めたい。ここしか広められないことを広めたい。四季桜を広めたい。人口が減ってきているから若い人に入ってもらいたい。

Q 中2女子テニス部です

すね。どうしてテニス部に入りませんか?

中 運動がしたかった。テニスがあった。

Q 部活がテニス部と吹奏楽部しかないけど、どうかな?

中 もっとあったらいいな。でもテニス部は楽しいし、3面コートがあつて思いっきりできる。試合に負けたときは悔しいけど。

Q 小原中はどうかな?

中 中学の学校祭がみんなと楽しめてコントやったり楽しい。人数が少ないから教室が広く使える(笑)

Q 将来の夢は?

中 伝統にふれあえる、小原和紙とか小原歌舞伎とか。

Q 将来の夢は?

中 運動関係の仕事に就きたい。ケーキ屋さんになりたい。小原ではなく鎌倉で!東京で、服飾のデザイン関係で働きたい。

Q 小原のここは不便だなというところは?

中 大きな虫がいる。本屋さんが少ない。空家が多い。住むには、車があればちょっと行けるしいかなあ。

Q 有難うございました。

今回、中学生の方にインタビューをし、少し照れながらも、ひとつずつ考えて答えていただきました。

小原中学校生活を存分に楽しんで、将来の夢も語ってもらい、小原の現状を解析しながらも小原愛を感じました。ふるさと小原を継承しつつ、これからは小原を好きでいてくれる、そんな感じがありました。これから進学、就職とまだまだ楽しいこと、大変なことがあります。がんばってほしいです。

人数が少ないからこそ出来る小原の結束力の手ごたえがありました。ご協力、有難うございました。

M.K

保護者の声

おば中1年目のママ

小原中学校の特徴と言えば「ソフトテニス」「吹奏楽」の2種類の部活しかありません。入学前から息子がどちらに入部するか気掛かりでした。

初めて小原中学校に入学した長男は、テニス部に入部しましたが剣道をメインで活動するという選択をしました。そのような生徒も少数派ながらもいます。選択肢が少ないながらも、その子らしい部活動ができるようです。やはり仲間が少ない、送迎等の保護者の協力が必要になるという現状もあります。

しかし、何よりなのは小学校より友達が増えて毎日楽しい、と通学してくれていることです。

※1 四季桜とは、春と秋に2度の花を咲かせる桜。小原地区内に約1万本植えられている

※2 「桜ライオン311」は東日本大震災の津波の到達点に桜を植え、後世に伝える取り組み

G.K

イカくんといしの巻 キンちゃんの小原日記-12



ランチのサンドイッチ

手づくりのお菓子や果実のジュース、こだわり豆のコーヒーもあります。作るのは娘の宏美さん。小原の食材を使い、小原でカフェをやったかたとお話して下さった宏美さんは、JA小原支店の窓口でパートをしながら、イベントでカフェを出店したり、絵やイラストを描くなどで活躍されています。カフェが好きでカフェで働いたり、いろいろなイベントに出店したりして人脈と知識を広げてきた宏美さん。お母さんの協力でいよいよふるさと小原で来年からは定期的に毎週日曜日、営業日にできるよう考えているそうです。手造り体験や保存食づくりのワークショップなど、田舎ならではのカフェにして、近所のお年寄りも気軽に遊びに来てもらえる場所にしたいそうです。イベントでのご縁からお知り合いになられたミュージシャンのライブなども考えているそうです。

小原を知っている人も知らなかった人も、気軽に立ち寄れる居心地のよいカフェになります。お店の情報は「お菓子野山」で検索してみてください

f
i
K.A

西 オーブン西細田町のカフェ「お菓子野山」

店主 井木宏美さん

細田町のカフェ「お菓子野山」に行ってきました。「おかしやさん」と読みます。お店は井木さん親子の離れを改装されたそうです。カウンター席と和室があり、和室には一枚板のテーブルが置かれていて、奥に小さなギャラリーもあります。雰囲気のある内装は、なんだか田舎のおばあちゃんに帰ってきたような懐かしい感じがあります。

この日はオーブンということで、ランチと音楽ライブを楽しみました。間近で聞く生演奏は本当に心に響く音で感動しましたよ。ランチはキッシュかサンドイッチを選びます。ふくらパンにたっぷりの野菜がはさまれたサンドイッチは口では入りきらない大きさ。地元野菜を使ったお料理はとてもやさしい味でした。



いちじくのタルトとコーヒー

海抜360mの山頂に、西暦820年建立、小原地区で一番古いお寺である。秘仏は十二面観世音菩薩。この観音様は、あらゆる方向に顔を向けて人々を救うとされる観音菩薩である。また、この観音菩薩は、願い事が良く叶うと云われ、今でも遠近問わず多くの参拝者がある。他にも賓頭盧様、半僧坊様も祀られている。



小原のパワースポット
豊田市唯一の仁王像がある
道慈山観音寺
愛知県豊田市千洗町道慈109

おばら地区の物件を探すなら!

豊田市 空き家バンク

www.city.toyota.aichi.jp/akiya/

小原の情報ページ
『おばちゅう卒』是非登録してね!
www.facebook.com/obachuu

小原地区の冬の風物詩、カンソカシキ。カンソカシキとは和紙作りの工程のひとつで、和紙の原料となる楮(こうぞ)の木の皮を蒸して剥ぎ取る作業のことです。どなたでもご参加いただけます。

和紙のふるさと
豊田市永太郎町216-1
0565(65)2151

〔2月20日~3月18日〕
小原地域の作家展
小原地区を拠点に活動している作家さんたちの作品展です。

和紙のふるさと
豊田市永太郎町216-1
0565(65)2151

〔1月19日(金)〕
カンソカシキ

小原いろいろ情報

STAFF
小原白字感 編集後記

今回、中学校への取材に参加させていただき、取材を通して今の小原中学校のことを知りました。今の中学生はしっかりしていて、僕らも応援していきたいと感じました。私自身も小原中出身で変わらない校舎や教室で懐かしかった。 G.K (今号編集長)

小原でのんびり過ごしていると小原でがんばっている人のお話は刺激的です。取材でたずねた素直で元気な「おば中生」を初めいろんな人が、小原で過ごす時間っていいな~と思える田舎であってほしいです。 K.A

小原中学校を訪問し、色々な話を聞くことで未来が少し明るく思えた。不便なところや、町とは違うところが沢山あると思うが、これからも、良きところがいっぱい的小原の魅力を発見し、みんなと発信していきたい。 M.K

今回、取材してみて感じたのは小原独自の特色ある教育がしっかりとされていて、郷土愛を育むための、いろいろな行事や授業があること。子どもたちも小原の事を好きでいてくれているようで嬉しかった。僕ら大人も地域のために出来ることをやりたいと思う。 T.S